X

電撃文庫『娘じゃなくて私が好きなの!?』/望公太

片思いの相手は幼馴染のママ!? 好きが爆発する超純愛ラブコメ!



★特別書き下ろしSS『娘じゃなくて私が好きなの!?』

「なんだか……大変な世の中になってしまったわね」 「そう、ですね……。まさかここまで大事になるとは思いませんでした。オリンピックをや

るかやらないか検討してた時期が、今は遠い昔のように感じます」

「なんですか、綾子さん」

「タッくん」

「今となってはもう、やれるわけがないだろ、って感じだもんね」 「出版業界も……大変な事態になってるみたいですね」

「編集さんもやっぱりそんな感じなんですね」

テレワークは普及していくのかもしれないわ」

「設定とか言っちゃうんですね」

ベルとかソーシャルゲームの編集業やってるっていう」

あるし……とにかく編集業なんて激務なんだから」

「なむなむ」

きそうですからね」

「……え?」

ていきたいわね」

「でも?」

しいような……」

「あー……」

Γ.....

のよ……」

ね!」

「そうね。今、どこの編集部もテレワーク推奨になって、みんな家で仕事するようになって るから」

「コンテンツ業界だけじゃなくて、他の業種もそうだと思うんだけど……『これ、わざわざ

集まらなくてもビデオ通話でよくね?』と思っていた会議が、今まではなぁなぁで続いてた

「編集部だけじゃなくて、アニメ業界とかのコンテンツ業界も変わってきてるみたいね」 「ふむ?」

は、なにかしらのインパクトがないとダメなのかもしれないわね」

「はあー、なるほど」 「決して今回の騒動を肯定するわけじゃないけれど……昔からの根強い風習を変えるために

の。でも諸々の自粛要請があってから、一気にビデオ通話の会議が広まったみたい」

「難しい話ですね」 「編集業のテレワークも、いざやってみると意外になんとかなるって人が多いわね。もちろ ん出社しなきゃできない業務もあるけど……今回の騒動が収束した後でも、案外出版業界の

「うん、言っちゃう。それでね、私の設定――『東北在住で在宅ワークしてるライトノベル 編集者』って……ぶっちゃけ、かなりファンタジーな設定なのよ」 「まあ……無理がありますよね」

「そう、無理があるの、現実じゃありえないの。東北在住で編集業なんてできるわけないか

ら。出勤しなきゃできないことはたくさんあるし、外部の人との打ち合わせだってたくさん

「そうだったわねー。でもまあ、『お仕事がメインの作品じゃないから』ってことで、東北

在住の在宅ワーク編集者というファンタジー設定のままで行くことになった……でも」

「ほら、私も一応、編集者っていう設定じゃない?」シングルマザーやりながら、ライトノ

「でも?」 「今後さらにテレワーク文化が根付いていったら……案外、東北在住テレワーク編集者って

「そう、つまり――私は時代の最先端編集者だったということね」

「い、いろいろ裏事情ぶっちゃけすぎじゃないですか……?」

に……なんでこんな、楽屋ネタの裏事情ばっかり」

てオーダーされたしね。でも……」

「一巻の段階で、若干編集部からは突っ込まれましたよね」

に地方に住みながら第一線の編集として活躍できる時代が来るのかもしれない。令和の編集 者には『都市圏に住んでいなければならない』みたいな常識も縛りもなくなっていくのかも しれない」 「確かに今回の騒動で、いろんな仕事での働き方っていうのが……良くも悪くも変わってい

いうのも、ファンタジー設定じゃなくなるのかもしれないわね。そう遠くない未来に、普通

当編集が所属してる『ストレートエッジ』をモデルにした会社で働かせて……その結果生ま れたのが、『東北在住のテレワーク編集者でシングルマザー』という現実じゃありえないフ ァンタジー設定だったのに……まさかそれが、期せずして時代を先駆けた『編集者像』とな ってしまうなんて……まったく、これだから創作は面白いわ」

「まあなにはともあれ……大変な時期だけれど、みんなで力を合わせてこの困難を乗り越え

「特に深い考えもなく作者が住んでる東北の地方都市を舞台にして、特に深い考えもなく担

「……雑にまとめに入りましたね」 「手洗いうがいをしっかりして、不要不急の外出は控えること。私達の本を買って欲しい気 持ちももちろんあるけれど……決して無理はなさらないように。売り上げのことは……そこ まで心配しなくても大丈夫だと思う。出版社だって、いろいろと考えて動いてくれてるか ら」 「そうですよね。今回のこのSS企画だって、買いたい本を買いに行けずにいる読者のため に、出版社がなにかしようって動いてくれた結果ですから。そんなありがたい企画なの

「うぐ……しょ、しょうがないでしょう? 私だっていろいろ考えたわよ。編集部からも

『時期が時期ですので、読者が楽しくなるような、なにか明るく楽しいラブコメ展開を』っ

「……考えても考えても、『私とタッくんが一緒に手を洗う』って展開しか思いつかなかっ たの。一緒に手を洗って、そしていつの間にか、お互いの手と手を洗い合う、みたい な……」 「え? それ、いいんじゃないですか? 時事ネタとしても的確だし、ラブコメ的にも美味

「そうなんだけど……でも、なんていうか――他の人とかぶりそうな気がして」

「こんな一斉にSS公開なんて企画やったらさ……絶対誰かがやるわよね。『ヒロインと一 緒に手を洗う展開』……。あとありそうなのは『ヒロインとビデオ通話』とか『ヒロインと オンライン飲み会』とか……」 「うわー……ありそう」

「この手の文庫にも収録されないSSをやるってなったら、時事ネタに走る人が多いわけだ

し……そうなったらもう、パターンが限られてくるわよね。大人数で一斉にSS書いたら、

「今はもう、作家同士での心理戦が始まってるところね。もしかすると、みんなが『ヒロイ

ンと手を洗う展開は、他の人もやりそう』って考えて避けた結果、逆に誰もやらない、みた

「そうなんだけどさ。そうなんだけどさあ……! 一回気にしたらどうにもならなくなっち

ゃって……。結局こうして、いつも通りにメタに逃げるSSになってしまったというわけな

いな展開もありえるかもしれない。それで深く考えずにやった人が、堂々と美味しいネタを 使えるというパターンも……」 「か、考えすぎじゃないですか……?」

「あなたは誰と戦ってるんですか?」

「……ふざけてる自覚はあったんですね」

☆☆この作品の最新刊!☆☆

マイページ

庫口

トップページ

✓ 読書の状況から作品を自動で分類して簡単に管理できる

✓ 小説の未読話数がひと目でわかり前回の続きから読める

✓ フォローしたユーザーの活動を追える

絶対に誰かとネタがかぶっちゃうのよ……」

タかぶるじゃないですかー』みたいなメタネタが誰かとかぶったら……死ぬほど恥ずかしい んだけどね。全力外そうとしてぶち当たる、みたいな」 「ほんとですよ!」 「ともあれ! せっかくの企画なので、皆様どうぞ楽しみましょう! 他の人はきっと…… こんなふざけた楽屋ネタじゃなくて、もっとまともなSSを書いてると思うから安心して

おわり

「まあ……こんなこと言っといて、こういう『こんなSS企画やったら、絶対に他の人とネ

年上女性が年下男子の猛アタックで大悶絶! 超純愛ラブコメ第二弾!

電撃文庫『娘じゃなくて私が好きなの!?(2)』も好評発売中! ⇒こちらもチェック! https://dengekibunko.jp/product/mamasuki/322001000032.html 作者を応援しよう! X ハートをクリックで、簡単に応援の気持ちを 伝えられます。(ログインが必要です) □ 応援コメント ♡応援する 19人が応援しました > 新規登録で充実の読書を

閲覧履歴

新着小説

ドラゴン様の召使、竜使いを引退してギルドマスターになる。/電撃の新文芸より5月17日発売/電撃文 ★9 • 異世界ファンタジー • 連載中 11話 • 2022年5月8日更新

強くて可愛い邪龍スルトと従者ルルが目指す、ほのぼのギルド経営ライフ! ―― 電撃文庫 🗖

マイページ

通知 閲覧履歴 小説の更新や作者の新作の情報を受け取れる 以前読んだ小説が一覧で見つけやすい 新規ユーザー登録(無料) アカウントをお持ちの方はログイン カクヨムで可能な読書体験をくわしく知る > 次のエピソード 電撃の新文芸『魔女と少女の愛した世界』/浅白深也 アプリで次のエピソードを読む 🕠 こちらもおすすめ